

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立認定こども園下田幼稚園

1. 本園の教育目標

しなやかな心と身体 もっともっと学びたい だいすき友達 しもだっこ

- 心身共に健康で、明るく生き生きと活動する子ども
- 友達と仲良く遊び、やさしさと思いやりの心をもった子ども
- 身近な自然に親しみ、生命の尊さに気付き大切にしている子ども
- いろいろな遊びに親しみ、自分なりの言葉で伝える子ども
- 豊かな感性をもち、自分の思いをのびのびと表現する子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「子どもの育ちと学びをつなぐ」 ～主体的に遊ぶための環境構成や援助のあり方について～

- 「学ぶ意欲」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」の基礎を培う。
- 幼児期にふさわしい環境を整え、自ら考え学ぼうとする意欲・自立していく力「人間力」を高める。
- 集団としての力を高め、目的意識・相手意識をもち課題解決に向けて協力・協同していく。
- 集団としてのマナーやルールに気付き、規範意識を高める。
- 個々のコミュニケーション力を高め、協同する大切さや伝え合う喜びを育てる。
- 主体的に関わり自ら発見・気付き・驚き等を伝え合い、試し考え工夫できるようにする。
- 命の尊さに気付き、自尊心を育む態度と心情を高める。
- こども園と小学校以降の教育を踏まえ、共にめざす育てたい力を明確化し、発達に応じた教育を進める。
- 思いや考えを自己表出できる子どもを育てる。理解して聞く・内容豊かにわかるように話す・友達同士伝え合うことの大切さを学び、どうすればよいのかを考え行動する力を付ける。
- いろいろな人や国の文化に親しみ、深める。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 「教育及び保育内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画」の編成・実施に関して、教職員間の共通理解と保育の充実を図る。	A	本園の教育課程を共通理解しながら、園児の実態に合わせて指導計画を立案し、実行、評価、改善を行い、園児に育てたい10の姿を意識し取組を進めてきた。保育の振り返りを行い成果と課題を明確にしていくことで幼児の育ちを共通理解し、全職員で今後も取組を進めてきたい。学級懇談会やドキュメンテーション、ホームページ等で保護者に伝え、教育活動への理解は得られていた。
(2) 環境整備及び安全確保	B	昨年度に引き続き、徹底した日々の安全面への配慮や点検を行い、環境を整備してきた。施設・遊具の点検は、様々な遊具や園庭の死角、幼児の目線に立った安全を心がけ、定期的の実施し、園児が安全に過ごせる環境づくりに努めた。 月1回の避難訓練等は実施しているが、さらに職員自身が危機管理意識を高め、あらゆる場を想定して指導にあたり、幼児自らが危険予測の能力や危機回避の力を身に付けられるように実践的な指導を行えるようにしていきたい。
(3) 特別支援教育のための園内支援体制の整備と特別な支援を必要とする園児についての家庭及び関係機関との適切な連携	B	特別支援コーディネーターを中心に支援児や個別の配慮の必要な子どものケース会議や学級担任と支援保育教諭の連携の会「分かる会」をもち、園児理解に努めた。対応や関わり方を共通認識するとより深く子ども理解できると感じた。巡回相談でのアドバイスや研修では、専門的な視点から園児一人一人への具体的な関わり方の指導を受け、実践していくことで幼児の姿に変化が見られ、保育者の関わり方の大切さを実感できた。また、保護者や関係機関との連携を大切に園児の育ちを確認し、話し合いをもつことで課題を共有し、今後も連携を取りながら進めていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価・結果

取り組むべき目標や課題について職員で共通理解を深めることができた。また、園児の育ちや保育のあり方について、職員一人一人が、自己点検・自己評価しながら、課題を見つけ取り組んできた。「子どもの育ちと学びをつなぐ」～主体的に遊ぶための環境構成や援助のあり方について～とテーマを設定し、取り組む中である程度の成果は得られたが、今後も継続して実施することで環境づくり、子どもの育ちと学びをつなぐための指導力の向上に努めたい。

コロナ禍で得た経験を基に、保護者に協力、理解を得ながら、子どもたちの様子を見ていただく機会として誕生会や参観、七夕まつり会、運動会や園児と共に作品展の観覧、生活発表会等、また園庭開放も工夫しながら実施した。様々な活動の中で、子どもの育ちを実感される言葉がたくさん聞かれた。これからも園児・保護者に寄り添いながら進めていきたい。また、地域への園での取組の発信方法を工夫していきたい。

5. 今後取り組むべき課題

評価項目	具体的な取組方法
保育指導計画の充実	教育課程の熟知と園児理解に努め、指導計画の点検・見直しを図り、年間を通してゆとりをもって取り組めるよう工夫し、園児の一人一人の発達段階や家庭背景に合わせながら、学年が変わり、担任が替わっても園児の育ちが繋がっていくよう全職員が共通理解できる体制を整える。
特別支援教育の充実	支援の必要な園児一人一人について、園児の見取り、指導のあり方や具体的な支援の方法などについて、職員間の連携を密にし、実践していく。また、園児が通う療育機関等の専門機関とは、これまで以上に連携を深め、個々の自立に向けて園の教育力を高める取組を進めるとともに、保護者とともにすまいるノートを適切に作成する。
環境構成及び安全確保	月1回の避難訓練等は実施しているが、さらに職員自身が危機管理意識を高め、あらゆる場を想定して指導にあたり、園児自らが危険予測の能力や危機回避の力を身に付けられるように実践的な指導を行えるようにしていきたい。施設・遊具の点検は、園児の目線に立った安全を心がけ、定期的の実施し、園児が安全に過ごせる環境づくりに努める。(老朽化による不具合の確認)
保護者・地域との連携	様々な人との関わりの中で、人と関わることの楽しさや心地よさを味わえるよう保育所・小学校・地域との交流を計画し、園児のコミュニケーション力を高められるようにしていく。保護者とのコミュニケーションを大切にし、園の取組の理解が得られるよう発信を工夫し、地域から信頼される園づくりを推進する。
働き方改革の推進	職員一人一人が、仕事へのモチベーションを上げ、ゆとりをもって園児に関わることができるよう方法や仕事の負担が偏りすぎないようバランスを考え、健康的に働けるよう環境を整えていきたい。

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- 学校関係者評価委員会を年3回実施し、園経営について理解していただいた。保育の様子を見ていただき意見交流をしながら総合的に評価していただいた。評価委員の方からは、「園児の明るい表情、先生たちの落ち着いた姿勢から、園生活が充実していると感じられる」「挨拶が気持ちいい、コミュニケーションが取れている」「園児一人一人を見つめながら、成長を促している」「年齢に応じて成長が見られる」「先生が子どもたちときちんと向き合っている」「今後も継続し、園教育の充実に努めてほしい」など幼児の育ちを実感していただき、園運営についても高評価をいただいた。
- 園での活動の様子が保護者や地域の方に更に伝わるように、交流も含め、検討して組んでいきたい。
- 今後も魅力あるまた、特色のある園づくりを推進するため、職員の共通理解と資質向上を目指し、地域に愛される認定こども園下田幼稚園として努力していきたい。